

様式1

決 裁
理事長

院長	顧問	顧問	副院長	副院長	副院長	副院長	事務長	受領者

小山記念病院倫理審査申請書

令和 8 年 2 月 24 日

小山記念病院倫理委員会委員長 殿

申請者 三村世奈



小山記念病院倫理委員会規定による審査を申請します。

1. 課題名	産後ケアを利用した母親が求めるケアと助産ケアの質向上に関する研究	
2. 代表者名	所属	
三村世奈	看護部	
3. 共同担当者名※共同の場合のみ	所属	
後藤浩恵 小池貴子	看護部	
4. 概要(具体的に記載すること)		
[1] 目的	別紙参照	
[2] 対象及び方法	<ul style="list-style-type: none"> ・当院の産後ケアを1回以上利用したことのある産後4か月以内の母親 ・対象:10名 インタビュー形式 ・休息を第一目的としたが育児不安などの訴えがあった褥婦 	
[3] 実施場所及び実施期間	実施場所:2階西病棟 実施期間:2026年2月～5月	
[4] 審査を希望する理由	看護研究を通し、産後ケアを利用する母親の潜在的なニーズを知り分析し、病棟スタッフへのフィードバックを通して産後ケアの質の向上を目指す。	

1. はじめに

厚生労働省¹⁾によると令和5年度の出生数は約72万7288人前年より4万3471人に減少し、人口動態調査開始以来最小となっている。これに加えて晩婚化・晩産化・少子化、核家族化の進展や出産・育児をめぐる環境の変化に伴い、支援を必要とする妊産婦が増加している。

このような社会背景から平成26年に妊娠・出産包括支援モデル事業の一部として産後ケア事業が開始した。その後令和元年にあった母子保健法の一部改正で市町村の努力義務に位置付けられ、これが令和3年に施行された。当初は「産後に心身の不調または育児不安等がある者」など特別な条件を持った母親だけを対象としていたが、令和5年からは「産後ケアを必要とするもの」へと支援範囲が拡大され、誰もが使えるユニバーサルな事業であることが明確化された。

産後ケアは出産後1年以内の母子を対象に宿泊型、デイサービス型、訪問型などの方法で実施されている。子ども家庭庁²⁾によれば産後ケア事業には、母親の身体的回復と心理的安定を促進するとともに、母親自身がセルフケア能力をはぐくみ、母子の愛着形成を促し母子とその家族が健やかな育児をできるよう支援する目的がある、としている。

当院でも現在4か月未満の母子を対象として産後ケアの受け入れをはじめ、利用者は増加傾向にある。多くの母親が「休息目的」で日中は児の預かりを希望し、アンケートでも「休息が取れて満足」との声が寄せられている。心身の回復には、休息・休養はとても重要である。

しかし、実際に訪室すると休息目的で訪れた母親が育児不安や夫婦関係の不調、メンタルの不調などを助産師に訴えてくる場合も多く見受けられる。こうした母親達と関わる中で、本当に児を預かり休息するだけで母親は満足なのだろうか、休息以外に母親が必要としている潜在的なニーズがあるのではないかと疑問を持つようになった。そこで、休息目的で産後ケアを利用した母親が、潜在的ニーズを持っているかについて明らかにする。

2. 研究目的

産後ケア事業を休息目的で利用する母親が抱える潜在的ニーズを明らかにし、その知見をもとに産後ケア利用者に対する質の向上につなげる。

3. 用語の定義

産後ケア事業：当院では生後4か月未満の児とその母親を対象に、休息目的のための新生児預かり、育児技術や授乳に関する相談や指導を行っている。

4. 研究方法

- 1) 対象者：当院の産後ケア利用者の中で休息を第一目的とした褥婦10名
- 2) 調査方法
 - ①データ収集期間：2026年2月
 - ②データ収集方法：半構造化インタビュー
- 3) 分析方法：質的記述的研究

5. 倫理的配慮

本研究の対象者には、研究目的、方法、参加は自由意志であり、拒否による不利益はないこと、個人情報保護について文書と口頭で説明を行い、書面にて同意を得る。また、倫理委員会の承認を得て実施する。インタビューは個室で実施し、プライバシーに十分配慮する。録音データ及び逐語録は匿名化し、個人が特定されないよう配慮する。データはインターネットに接続していないパソコンに保存し、USB等の外部媒体への保存や持ち出しは行わない。公表の際は、個人が特定されないよう十分配慮する。

6. 引用（参考）文献

- 1) 厚生労働省. (2023). 令和5年人口動態統計月報年(概数)の概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/jinkou/gepp>
- 2) こども家庭庁 産前産後サポート事業ガイドライン産後ケア事業ガイドライン(令和7年3月) <https://www.cfa.go.jp>
- 3) 宇都宮美加, 崎山貴代, 古田美幸, 他. 母親の産後ケアニーズを構成する因子の検討と特徴. 母性衛生. 2024年1月. 第64巻4号
- 4) 牛越幸子, 東森優子, 石岡伸子. 産後ケア事業に関する文献検討. 神戸女子大学看護学部紀要. 2023年3月. 第8巻23-31

インタビューは利用回数、出産歴、周産期などみて情報収集してから行う事！

アイスブレイク

自己紹介、今回のお礼、話しやすい雰囲気づくりをおこなう

※産後ケアについてお伺いしていきます。

①産後ケアを利用しようとおもったきっかけについて教えてください。

→どんな些細な理由でもいいので教えてください。

②産後ケアを利用してみて良かったと思った事はなんですか？

→思い浮かぶ事を全て教えていただきたいです。

③産後ケアを利用してみて全体的にどのような時間だったと感じていますか。

→自由にお答えいただいて大丈夫です。

④産後ケアで「もう少しこうだったらよかったのに」と思った事はありますか。

⑤産後ケアを利用してみて自分はこんな事に困っていたんだと気づいた事はありますか。

※次に助産師の関わりについてお伺いします。

⑥産後ケアの利用中どのような関わりがありましたか。

関わりがあった→その関わりについてどんなふうに感じましたか。

関わりがあまりなかった

→Q1 そう感じられたんですね。どのような場面でそう思われましたか。

Q2 利用される前はどのような関わりを想像していましたか。

Q3 関わりが少ない（あまりない）と感じた時どのようなお気持ちでしたか。

Q4 もし、もう少し助産師と話せる時間があったら何か話したり相談したりしてみたい事はありましたか。

※最後に

⑦これから産後ケアを利用する人がいたら、どんな事を伝えたいですか？